

宮崎市立東大宮中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校（全校生徒490名）は、「心豊かで、主体的に学び、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標にかかげ、学校と保護者、地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりを推進し
①礼節を重んじ、思いやりのある生徒 ②学習意欲と思考力、判断力、実行力のある生徒 ③健康で明るく、粘り強い生徒をめざす生徒像とし、全職員でその具現化に努めている。現在の教育的課題は以下の3点である。

- (1) 主体的な学習態度の育成と学力向上
- (2) 心の教育の推進と生徒指導の充実
- (3) 教育環境の整備と保健・安全教育の推進

2 生徒の実態

本校の生徒は、礼を重んじ、朝のボランティア清掃活動や無言清掃活動（三心清掃）など自主自立の精神が徐々に育ちつつある。昨年行われた CRT（目標規準準拠）検査（現2年）では、国語と数学については全国平均を上回っているが、英語が大きく下回っている結果が出ている。4月に全校生徒を対象に行った学習に対するアンケート結果では、家庭学習の時間が大半は2時間以下で多くの生徒が家庭学習に対して意識が低いという実態が明らかになった。また、授業の復習についても約2割の生徒は行っておらず、家庭学習の充実を図ることも必要であることもわかった。このことは、教師側の認識の甘さがあったと反省せざるをえない。そこで、「わかる授業」と、学校での学習と「家庭学習」をリンクさせた取組が重要になってきた。

3 学力向上へ向けた経営方針

全職員が、各自の責任ある分業と協業により、同じ目標に向かって精励することは大切である。学力向上へ向けて学校・学年・学級の一貫性のある経営方針の下に、きめ細かで系統性のある経営を行うことが必要である。また、基礎・基本の徹底、自主的・自発的な活動、体験的な活動、個を生かす指導などを重視した教育活動の一層の充実・推進に努めることにした。

また具体的教育課題については、「主体的な学習態度の育成と学力向上」へ向けて以下の4点に重点を絞って実践につなげていくことにした。

- (1) 各教科の数値目標に基づいた学力向上を目指した魅力ある授業の創造
- (2) 「学びのサイクル」に基づいた学習態度の育成及び学習意欲の喚起
- (3) 「学び方ガイド」の作成と具体的指導
- (4) 学力向上と豊かな心の架け橋となる読書活動の充実

4 教育課程内の取組

本年度は、これまでの研究の成果と学校としての具体的課題をふまえ、各教科が具体的な数値目標を設定し、その実現を目指して授業改善を大きなねらいとし、学校での授業を家庭学習への充実へと波及させ「確かな学力」を身につけさせていくことを目標にした。そのために、

「学力向上アクションプラン2005」として以下の具体的な計画を盛り込み実践につなげた。

(1) 各教科の具体的な数値目標の設定と具体策の作成

各教科ごとに、「学力向上数値目標」を設定し、その実現に向けて「具体的な教師の手立て」を明らかにするとともに、授業と家庭学習リンクさせることにより、学力向上へ向けた授業の工夫改善を行った。

① 「学力向上数値目標」 例

国語科

- 文章の要旨をまとめ、自分の意見や考えを述べる文章を書く力を第1学年80%、第2学年90%、第3学年ほぼ全生徒に見につけさせることを目指す。

数学科

- 定期テストで60点以上を全生徒の8割、その内5割は80点以上を目指す。

② 「具体的な教師の手立て」 例

国語科

- 図書館教育との連携により、読書の推進を図ることで意欲的に文章に親しむ態度を育てる。
- 選択国語の時間等を活用し、漢字の反復練習を行い生徒の意欲を喚起する。

数学科

- 平日課題を取り入れたり、計算ドリルを適時活用していく。
- 授業2分前から前時間の復習テストを行う。
- 定期テスト、実力テスト前にポイントの復習を行う。

(2) 実態調査の実施と検証（学習に対する実態把握）

県教育研修センターが昨年実施したアンケート（教科学習への関心・興味、理解や自宅学習の方法等）を新年度を迎えた生徒に実施した。それをもとに宮崎県の生徒と本校生徒との実態を比較し、本校の課題等を明らかにした。

表1 自宅学習における復習の習慣

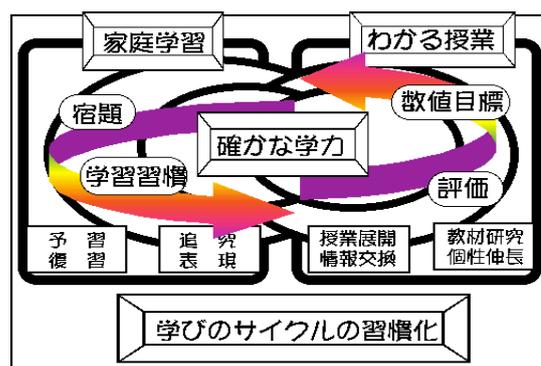
復習	必ずする	ときどき	あまりしない	全くしない
宮崎県	26.6	49.1	17.5	6.6
東大宮中1年	27.9	53.7	15.6	1.4
東大宮中2年	33.8	50.0	16.2	5.2
東大宮中3年	27.5	58.2	13.1	2.0
東大宮中平均	29.7	54.0	15.0	2.9

表2 平日の自宅学習時間

学習時間 平日	0時間	30分	1時間	1時間 30分	2時間	2時間 30分	3時間 以上
宮崎県	8.8	15.8	28.4	23.6	15.8	4.3	3.2
東大宮中1年	3.4	15.6	29.9	29.9	15.6	0.7	2.1
東大宮中2年	6.5	17.5	33.1	21.4	16.9	3.9	4.5
東大宮中3年	5.9	14.4	20.9	17.6	26.8	5.2	11.1
東大宮中平均	5.3	15.9	28.0	22.9	19.8	3.3	5.9

(3) 学び方ガイドの配付と具体的指導

各教科で予習，復習及び問題解決的な学習の仕方をまとめたものを冊子にして生徒に配り，各教科で授業時間はもちろんのこと，学級活動を通して効果的な学習方法を指導するとともに，具体的に取り組ませる指導した。さらに，「わかる授業」と「家庭学習」とのリンクを図ることを「学びのサイクル」と名付け，その習慣化を図ることで，確かな学力の定着を目指した。



(4) 学びのサイクルの習慣化に向けた一人一研究授業の実施

各教科の具体的な数値目標の達成に向け，授業における目標や検証事項を明確にし研究授業を行った。指導案の中に，「学びのサイクルの習慣化への対応」という項目をたて，宿題等を含め具体的な指導を明記した。

また1学期の生徒の実態を踏まえ，2学期以降の教師の具体的手立てを明確にしておくことを共通理解し，全員の教師が学びのサイクルの習慣化へ向け授業改善を進めていった。



研究授業の様子（数学科）

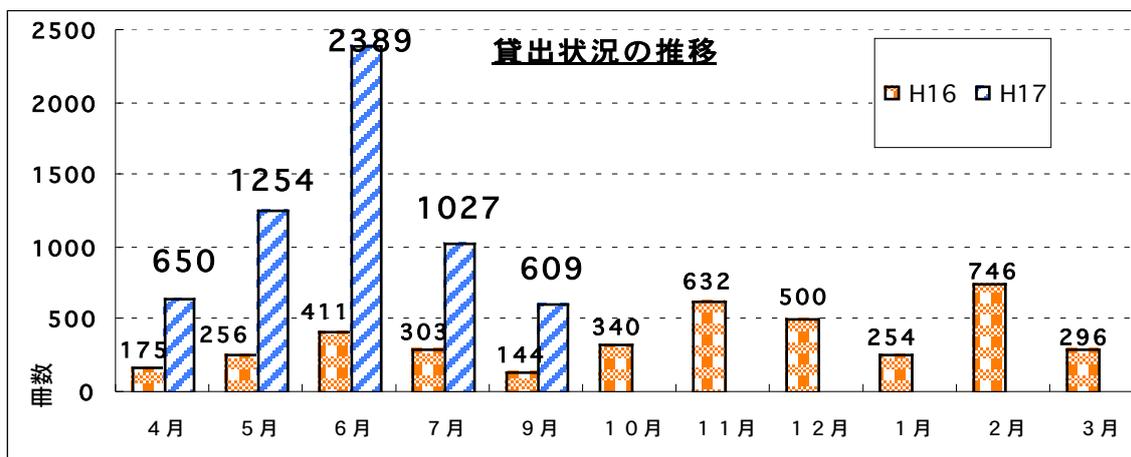
5 教育課程外の取組

○ 読書指導の推進

学力向上と豊かな心をつなぐのは読書活動であるとの考えに基づき，読書活動を本格導入した。自ら進んで読書することのできる生徒を育成することや，豊かな感性や人間性ととも基礎学力を身につけさせることをねらいとした。朝の読書を1学期の5月から6月にかけて集中して取り組んだ。実施時間は朝の会が行われるまでの20分間で行った。教師も共に読書を行い，学校全体として読書の時間を共有し，楽しみ，大切に作る体制をつくった。

また随時図書便りを発行して、貸し出し状況や新刊の案内など家庭への啓発も行った。

図1 平成16年度及び17年度の図書室貸出推移グラフ



6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 学校だより（ナギだより）の発行

開かれた学校づくりを目指し、学校行事の案内や、コンクールや部活動及び学力試験の結果なども盛り込み、月1回程度発行した。また地域の自治会を通して、校区内の全世帯に回覧をお願いし、学校からの情報を地域に発信した。

(2) 「夢をつかめる学力を」の発行

校内研究の家庭地域連携班から、「学校と家庭での学びのサイクルの重要性を保護者や生徒に啓発していけば、家庭学習の時間が増え、生徒1人1人の学力向上が図れるであろう」という仮説に基づいて、家庭学習についての情報を発行している。また同時に、主題研究の具体的内容をホームページにて発信している。

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

(1) 成果

- 学力分析やアンケートを実施したことで、生徒の実態を考慮した具体的な学習指導や個別指導ができるようになった。
- これまでの研究を生かす形で「学び方ガイド」の作成を行い、授業と家庭学習をリンクさせた「学びのサイクル」の習慣化を図ることができた。
- 具体的数値目標を決めたことで、授業を中心とした教師の具体的手立てが明確になり授業改善へ向けて共通理解が図られ、「東大宮中学校ならではの教育」を推進することができた。

(2) 課題（次年度の取組）

- 「新学び方ガイド」をさらに有効に活用するため、生徒や保護者によりよい活用法を啓発していくこと。
- 「学びのサイクル」の習慣化へ向け、さらに授業改善を推進していく。
- 読書指導をさらに充実させることで、学力向上ならびに心の教育を推進する。